



題字／原田 美哉

No.124 / 2026.6.30



今日も元気にガンパロウ!! 飯網ドリームズ

photo / 高橋 弘之

特集

# この町で暮らし、 この町を語る

## 主な掲載記事

この町で暮らし、この町を語る……………	2～5
おじゃまします・あっちこっちこの町……………	6
ねがい・ど～こだ!? など……………	7
公民館ダイアリー・お知らせ・図書室からなど…	8～10
アルバムからこんにちは・さんぽ道……………	11
いづなレポート……………	12

「ど～こだ!?」では、答えを募集しています!ぜひ、ご応募ください!!

# この町で暮らし、この町を語る

「最近、若者の間でラジオが流行っているらしい」という話題になりました。  
「ラジオじゃなくて、ポッドキャストって言うんだよ！」  
そんな会話から、「飯綱町にも『わけしよの山ん中ラジオ』があるんだよ」という話に。  
なぜ今、音声配信なのか。そして、それを発信している若者たちはどんな人たちなのか。  
気になったので、早速取材してみました。

編集委員 宮澤 千秋、正村 明菜、西村 啓大



若者の声をとどける必須アイテム



毎週日曜日に更新している  
ポッドキャスト。  
最近リスナーもスポンサー  
も少しずつ増えてきている。



一般社団法人わけしょ 2024年2月設立

## 「わけしょ」とは北信方言で「若者」のこと

飯綱町を拠点に活動している20代中心のまちづくり団体。30歳で引退し若者主体を制度として固定しようとしている。

### ●発足のきっかけ

多くの友人が町を出て行ってしまふ。残った若者はどんな苦悩を抱えているのか？どんな生きづらさを感じているのか？その思いを共有し若者が町に住み生きていくスタイルを探りたいとの思いがあり、法人として町に発信したいと考えた。

## 「わけしょ」現在の理事3人の思い



甲村南海子

長崎県出身。大学サッカーの繋がり  
で町内企業(株)PLAYMAKER(プレイ  
メーカー)に勤務。現在は長野市から  
通勤しているが飯綱町で働いているこ  
とを意味のあるものにしたいと思いわ  
けしょに所属。地方で若者が原動力に  
なろうとしていることに興味がある。



寺島陸斗

木に関する事業で独立を目指して  
いる。わけしょの活動から広く繋がり  
をつくること、企画運営の経験から  
経営を学んでいる。コミュニティ  
で仕事を融通し合いみんなで生きて  
いく地域を目指している。



中嶋彩花

喫茶営業、宿泊業など自分でやり  
たいことがあり、町で生きていくこ  
とに向き合っている。後に続く若者  
に町で起業するための道筋をつくり  
たい。若者の力を町のために役立て  
たい。

### ●今後取り組みたいことは

いま、問題だと思っているのは単身者の移住には町の補助がないこと（夫婦、子育て世帯での移住には生活支援などがある）。単身者の若者にも住みやすくなれば町内で若者のコミュニティも広がり町の活気に繋がると考える。「若者たちが町で新しい出会いや繋がりを見つけながら、結婚の有無に関わらず、自分らしい生き方を選び、この町で暮らし続けたいと思える地域になれば嬉しいです」



# 取り組んできた事業と現状

## いづなロゲイニング

地図を使ったスポーツイベントで町の魅力や課題を集め地域データとして活用する。

## いづなpay 通称なっぺ

地元の店と人の繋がりを増やすためのコミュニティ通貨。共助の文化を現代風にアップデート。町のイベントに参加して貯めた「なっぺ」を町内店舗で使うことができるようにすることで町に還元する。

## 問い会

生きづらさをテーマに、問いを深める20代限定の対話会。

## いづな若者会議事業運営

若者の感性や行動力を地域に活かす。

前は町の資源を生かしたスモールビジネス支援を実施。上限5万円の補助もあり絵本出版やエッセンシャルオイル販売などに繋がっている。

## 山ん中ラジオ

ポッドキャスト（インターネット配信の音声番組）にて毎週更新中。年齢、職種を超え広い繋がりの中からゲストを招きわけしょメンバーとの対談もあるトーク番組。

趣味のサークルや企業などの広報の場にもなっている。町の情報を町外へ広く発信している。

## 草刈り部隊

中山間地域等直接支払事業の一環で、集落内の管理が行き届かない農地の維持管理を、町内外の若者と共に実施。部隊員は随時募集中。



第4回いづなロゲイニング



いづなロゲイニングを盛り上げた運営側の女子達



いづな若者会議の集まり



問い会



朝活 薪割り



草刈り部隊で地域の手助けを

## 「わけしょ」の設立に たずさわった

元理事の滝澤宏樹さん



株式会社みみずや副社長、  
いいづなコネクトWESTで  
「フィットネスクラブSent.」を運営

## わけしょを始めた経緯

### 「みみずや」から始まった 若者支援の3年間

当時26、27歳だった滝澤さんは地域の中にほとんど同世代の若者がいないという現実を目の当たりにしていました。

そんな中、運営していたSent.に会員として通ってくれていた彩花さん、アルバイトとして働いてくれた陸斗さんなど、少したの世代の若者たちとの出会いをきっかけに彼らのような20代の若者が、地域の中で生き生きと働き、安心して生きていくための環境を作りたい！そのために助成金を活用し、3年計画でスタートさせたのが「みみず」的人材育成でした。

この事業の目的は、ビジネスで

華々しい成功を収めるような目立つ人材を育てることではなく、ミズが土を耕すように、目立たなくとも目の前のことを地道にこなし、地域の循環を担えるような「地味でたくましい人」を増やしていくことでした。

### 当事者たちの想いと法人化、 そして「わけしょ」の誕生

個人でコーヒー店を営んでいた彩花さんは、「ただ漠然と商店街を盛り上げたいというだけでなく、個人では手が回らない部分をもっと多くの人を巻き込んで、法人として形にしていきたい」という強い想いを抱いていました。また、当時はサラリーマンだった陸斗さんも、「現場で実際に木をいじる仕事をしたいのには、営業の役割に回っていてやりたいことに時間が割けない」という葛藤を抱えていました。

「それなら、一緒に法人を作って何か始めてみないか？」

そんな対話から、新たな一歩が動き出しました。法人名を決める段階になり、陸斗さんから提案されたのが「わけしょ」という名前でした。地域の祭りの「若衆（わけしょ）」を連想させるこの言葉は、まさに彼らの活動の象徴となります。

### あえて設定した

#### 「30歳で引退」というゴール

「わけしょ」の立ち上げにあたり「30歳になったら引退する」という1つのゴールを当初から決め活動

を開始。

本業の「みみずや」を運営していくことも理由の一つですが、何より法人格のノウハウをしつかりと引き継ぎ、自立することを目標とし「30歳」という明確な期限を設けることで、全力で駆け抜ける面白い挑戦ができるのではないかと、この願いを込めて30歳での引退を決定しました。



自身人生初の辞表

## やってみて思った こと・地域への想い

### 田舎における「若い」の 境界線と、あえて線を引く意味

地方では60代でも「まだ若いな」と言われ、地域の消防団や祭りの保存会、農家の集まりなどで「若衆」を引退できるのが40代や50代、あるいは一生引退がないことも珍しくありません。

先を走る先輩方が「引退したくない」「現役でやりたい」と熱量を持つことは素晴らしい一方で、20

代の本当の若い世代から見れば、どこか敷居が高く感じてしまう部分もあります。

だからこそ、先輩たちから見れば「まだ子どもだ」と思われるのを承知で、あえて「若い」というのは20代までのことだよね」と30歳でスパッと線を引く。自分自身に一区切りをつけ、そこからは「次の世代の若者をサポートする側に回る」という明確な線引きを示すことに、大きな意味があると考えたと言います。

### 「地元で生まれ育った若者」が 動くことの圧倒的な意味

「陸斗さんと彩花さんの姿を見ていて、痛烈に実感していることがあります。『外から来た人間』が地域で何かを起こすことと、彼らのような『地元で生まれ育った人間』が立ち上がることとは、地域における意味の重みが全く違うということですよ」と滝澤さんは語りま

す。外からの新しい風も大切ですが、その土地で生まれ、育ってきた若い世代が「どうすればこの町で生きやすく、働きやすくなるか」を考え、実践していくこと。これこそが地域の本質的な活力になると考え、だからこそ彼らの挑戦は、彼らだけの問題にせず、地域全体で支え、考えていかなければならない課題だと次の世代を担う若者たちへ希望を込め投げかける滝澤さん。むしろ大人たちがきちんと考えるべきことなのではない

でしょうか？

### 「住みたい場所に住める 選択肢」を次の世代へ

若者たちに、地域と関わることで自分の行動や作ったもので周りの人に喜んでもらえる経験をたくさん積んで欲しい。

「飯綱町は、その選択肢に選ばれただけの魅力が詰まった、本当にめちゃくちゃいい場所です。若者たちが「何もないから出ていく」のではなく、『この町が楽しいからここで生きる』と思えるような道筋を、これからは彼らと共に地道に耕し続けていきたいと思っています」

## 飯綱町のこれから

飯綱町の魅力は、景色や特産品だけではありません。そこに暮らす人たちの姿もまた、この町の大きな魅力です。

わけしょの皆さんとの話を通して、自分たちなりのやり方で地域と向き合い、挑戦を続ける若者たちの存在を改めて知ることができました。

山ん中ラジオから聞こえてくるのは、そんな若者たちの等身大の声です。仕事のこと、暮らしのこと、地域のこと。何気ない会話の中に、今の飯綱町が映し出されています。

その声に耳を傾けることは、今の飯綱町を知ることでもあり、これからの飯綱町を思い描くことでもあるのかもしれない。



# 飯綱リゾートジュニアテニスクラブ 大会を目指して練習中

町のスポーツ少年団「飯綱リゾートジュニアテニスクラブ（硬式）」では、現在4名の子どもたちが毎週1回の練習に励んでいます。指導にあたるのは2名のコーチ。少人数ならではのきめ細やかな指導のもと、基礎から楽しくテニスを学んでいます。

クラブの大きな特徴は、スポンジボールを活用した練習です。スポンジボールは通常の硬式テニスボールより柔らかく、スピードもゆるやかなため、子どもたちでもラリーがつづきやすくなります。ボールをしつかり見ながら打つことができるた

め、ラケットの中心でボールをとらえる感覚を自然に身につけることができます。硬式ボールでラケットの中心を外して打ち続けると、手首や肘に負担がかかることがあります。しかし、スポンジボールは衝撃が少なく、けがの予防にもつながります。楽しみながら正しいフォームを身につけることが、この練習方法の大きなメリットです。



子供たちの成長を支える飯綱リゾートジュニアテニスクラブの広瀬健司コーチ(左)と服田昭男コーチ(右)

今年再び大会出場を目標に、体育館で練習を重ねています。都会の大会にはレベルの高い選手が集まるため、子どもたちにとって大きな刺激となり、技術向上の貴重な機会にもなっています。以前は東京都からプロのコーチを招き、夏

合宿を開催していた時期もありました。現在は予算都合により実施できていませんが、子どもたちの成長を願う指導者の思いは変わりません。少人数だからこそ、一人ひとりの成長を大切にできるジュニアテニスクラブ。仲間とともに汗を流しながら、今年も大会出場を目指して練習に取り組んでいます。レッスンは毎週火曜日18時30分から20時までです。「いつでも体験できますので、ぜひお気軽にお越しください。」

また、クラブでは毎年、東京都で開催される「全国シヨートテニストーナメント」への参加を続けています。昨年は残念ながら参加できませんでした。今年も大会出場を目標に、今年再び大会出場を目標に、体育館で練習を重ねています。都会の大会にはレベルの高い選手が集まるため、子どもたちにとって大きな刺激となり、技術向上の貴重な機会にもなっています。以前は東京都からプロのコーチを招き、夏



スポンジボールを使った練習で大会を目指す子どもたち



タイトル／近藤 理香

## 飯中生、和服にふれる

No.87



一生懸命に取り組む男子生徒



楽し気に着付けをする女子生徒

初夏を迎え、日ごとに暑さが増していた6月初旬。飯綱中学校で、2年生が浴衣の着付けにチャレンジしました。家庭科の授業の一環として、担当の増田友香先生の企画で行われたこの授業。増田先生によれば、学習指導要領で必修になっている「和服について触れる」授業を行うため、これまでは和服を実際に見せたり、和服が作られる

際に使われる型紙を見せたりしながら、その構造や洋服との着心地の違いなどについて伝えていたといいます。そんななか、今回は「もっと和服の文化に触れてほしい」という思いから、実際に和服を自分で着ることに挑戦する授業を立案。山野流着装教室の中学校・高等学校着付授業指導講師で、美容室fujisawa(倉井)の桜井清子さんに協力を仰いだところ、桜井さんが師匠や仲間と声をかけたことで、実現しました。

当日は、桜井さんと、清野友美子さん、滝澤小春さん、松野里佳さんの4人で授業を進行。生徒たちは、男女に分かれて、浴衣の着付けを体験。夏祭りや花火大会に出かける際など、一般的に使われるオーソドックスな帯の締め方を教わりました。生徒たちは、「難しい!」と四苦八苦しながらも、楽しんでるようでした。桜井さんたちは「興味を持って、熱心に聞いてくれて、うれしかったです」と話しました。(三原彩音)

5月の下旬に飯綱中学校で「劇作家・演出家の平田オリザ先生」の講演会がありました。先生のお話しでは、大学もAーによって変わります。単なる知識はAーが教えてくれる。これからは長い時間をかけて体についたものが大切になると言われました。先生の言う「身体的文化資本」とは、その人が身につける体を通じた教育や能力、ふるまいのことです。

例えば①美しい姿勢や歩き方②丁寧な言葉づかい③スポーツや楽器の技術④食事のマナー⑤ダンスや武道の所作⑥上品だと感じられる身のこなし——このことのみ。

これはすぐに身につくものではなく、家庭環境、教育、習い事、周囲の文化によって身につくものです。ただ知識を丸覚えするのではなく、時間をかけて家庭・地域での習慣、学びが基礎となって身につく、これが将来大切な財産になると言っているのです。

公民館活動では7月に小学4年生〜6年生を対象に通学合宿を行います。三水小の児童は倉井にある松雲寺さんから通学し、牟礼小の児童は町民会館から通学します。

このような地域の活動が子どもたちの好奇心を掻き立て、家庭とは違う環境で主体性をもって、何かを見つけてきつかけになってくれればと思います。

(公民館長 浅岡義樹)

## ねがい

119

### 自分のジェンダーに 気づくこと

ジェンダーという言葉が広まり、「男はこう、女はこう」といった固定的な考え方は、少しずつ和らいできています。私が接する小学生の間でも、服の色や持ち物に決まりはなくなり、それぞれが自分らしい選択をし、お互いを受け入れる姿が自然に見られるようになってきた。

しかし、中学校の制服に関しては、まだ戸惑いが生じる場合もある。女子生徒

Aは、スカートに違和感を抱きながらも、その理由が分からず、長い間我慢を続けていた。冬になりスラックスを履いたときには安心したもの、その期間に限られており、再び負担を感じるようになり、やがて学校を休みがちになってしまった。

その後、学校がAの気持ちに寄り添い、年間を通してスラックスの着用が認められると、Aは落ち着いて過ごせるようになったという。この出来事から、自分の中の違和感に目を向けることの大切さ、そしてそれにできるだけ早く気づくことの重要性を、あらためて感じている。

(飯綱町立牟礼小学校 大久保明廣)

### 123号「ど〜こだ!?!」 答え いいづなコネクトEASTの遊具

■下の二次元コードを読み取ると123号の答えの位置図が表示されます。



答えを  
募集します!



photo / 高橋 弘之

ど〜こだ!?!

これは、どこでしょう。

**ヒント** この近くにある施設には行ったことがある人も多いと思います。

飯中校長・坂戸先生が記念講演

5月14日に町民会館ホールにて、飯綱町青少年育成町民会議定期総会が開催され併せて記念講演が行われました。

当日は、講師の飯綱中学校長・坂戸晴俊先生が「誰もが幸せを感じることができるTEAM飯綱」～飯綱中学校の取組と現状について～と題して講演。中学生が身近にいない大人たちにとっては普段なかなか知ることがない、近年の飯綱中学校の様々な取り組みや授業の様子を、約50名の方々にお話いただきました。

飯綱中学校では、「誰もが幸せを感じることができる学校」として、生徒が自ら考え行動することを促す環境づくりを進めています。例として、教室での一般的な授業の他に、友達どうしで相談しながら勉強したり、廊下に机を置いて勉強したり、その子らしく学べる環境を用意しているということが挙げられました。また、異学年とのつながりを深めたい生徒の要望を受け、やりたいことで生徒をつなぐ「NEW部」（公民館報No.121特集に掲載）を設立し、学校祭で活動発表を行うなど、生徒の声を尊重する教育活動が実施されています。

また週1回行われている「探求の時間」では、地域貢献や地域の課題解決につながる取組を生徒が考え、地域のイベントに参加したり、スタッフとして運営に携わっています。地域としても中学生との関わりを大切に、応援していくことが大事だと感じられる講演でした。



坂戸先生の講演



教育長祝辞

いづな大学入学式・カルチャー教室開講式

6月10日、いづな大学入学式・いづなカルチャー教室開講式が開催されました。

いづな大学では、昨年度より6名多い30名の方が入学されました。

また、いづなカルチャー教室では、生涯学習の一環として、14の講座で様々な分野を楽しく学んでいきます。本年度は延べ196名の方が受講されます。

開講記念講演では、長野市立博物館協議会長の宮下健司先生をお招きし、「一茶俳句に歴史を読む」と題して、ご講演いただきました。

一茶の波乱万丈の生涯についてのお話を皮切りに、一茶の代表作をはじめ、「ふるさと」、「日々の生活」、「一茶の人生」などジャンルごとに句を分かりやすく紹介していただき、特に方言や擬音・擬態語の入った句など一茶の作品の醍醐味を感じることができた講演となりました。



講師の宮下健司先生



町長祝辞

いづな大学で学びを深め仲間づくりを

シニア世代の多様な生き方、価値観を大切にしながら、自ら学び健康で楽しく生きることを最大の目標に、いづな大学を開講しています。町内に居住する方ならどなたでも入学いただけます。6月から翌年2月まで、全13講座を企画しています。信州大学の先生による健康や法律についての講演、音楽鑑賞会、近隣町村への視察研修など、盛りだくさんの講座を計画しています。年度途中での入学もお受けしていますので、ぜひ、新たな学びを始めませんか。



戸隠中社見学（昨年度）



音楽鑑賞会

## 令和8年度二十歳を祝う会

令和8年度二十歳を祝う会を次のとおり開催いたします(令和4年度より民法の一部改正により、名称を「成人式」から「二十歳を祝う会」に変更しました)。対象者の方には、封書でご案内していただきますので返信をお願いします。

懐かしいお友だちと一緒に人生の節目をお祝いしましょう。

**日 時** 8月15日(土) 14時～

受付 13時30分～

**場 所** 飯綱中学校講堂

**対 象 者** 平成18年4月2日～平成19年4月1日までに生まれた方

**問 合 せ** 026-2253-6560

## トムソーヤフェスティバル

**日 時** 9月5日(土)

8時～受付開始、正午頃終了予定

**会 場** 飯綱東高原天狗広場周辺

今年もトムソーヤフェスティバルを飯綱東高原の天狗広場周辺にて開催します。イワナのつかみ取りや炭火でパン焼き、木工体験のほか、モルックや発掘体験などを予定しています。

7月下旬に内容のお知らせとあわせて申し込みを開始する予定です。申し込み方法については別途お知らせします。たくさんのお子さんの参加をお待ちしています。

**問 合 せ** 026-2253-6560



のこぎりを使って木を切ります



炭火で焼きたてを味わいます



イワナのつかみ取り体験



## 図書室から



### 中学校図書館新着本

- ここで唐揚げ弁当を 小原 晩
- 食べないでください 水沢 なお
- こんにちは 荻原 浩
- 陰謀論百物語 茂木 ちあき
- バロアチー! 鎌田 安里紗
- わたしの服はどこからきて 寺地 はるな
- どこへいくの? 岩井 圭也
- ぬすびと 原田 マハ
- 拳の音が聞こえるか 五十嵐 大
- すべてが円くなるように 秋田 麻早子
- その手は明日を紡ぐために 呉勝 浩
- 奇妙でフシギな話ばかり 福尾 匠
- ブルース・コウヴィル 八木 沢里志
- なぜ、これが名画なの? 平石 さなぎ
- アトミックプレイヤー 村山 田佳
- 置き配的 大島 清昭
- ペンション・ワケアツテ 角田 光代
- ギアをあげて、風を鳴らして
- 冷蔵庫婆の怪談
- DANGER
- 明日、あたらしい歌をうたう

### 公民館図書室新着本

- 一般図書
- 手配する女 山口 恵以子
- 山田太郎の話 水沢 秋生
- つくろうひと 村山 早紀
- 30代後半、独身、ひとり暮らし 畑野 智美
- 未館成の殺人 信国 遥
- 最果てキッチン 高山 環
- 一撃のお姫さま 島本 理生
- 小学61年生 朱川 湊人
- ジャスティス・マン 佐藤 厚志
- 死んでしまえば最愛の人 小川 有里
- 豆は煮えたか 朝井 まかて
- あなたとわたしの短歌教室 服部 真里子
- 「手に負えない」を編みなおす 友田 とん
- 今日もぼーっと行つてきます 中島 京子
- ピンヒールで車いすを押す 畠山 織恵
- 老いることの驚きと幸せ ソフィー・バーナム
- 本と歩く人 カルステン・ヘン
- 聞き出せる人がうまくいく 荒木 俊哉
- つくられた日本の自然 大貫 恵美子
- 乳と捨て子の〈近代〉 沢山 美果子
- 日は植物 いとこうせい

### 児童図書・絵本

- こうえんいこう
- つなごーごー
- やさいぐんぐん
- バスマだかな
- りんごりらっぱ
- ざっそうの名前
- のうじょうのいえ
- 雲がおしえてくれること
- イチからつくる蚊とり線香
- これなんだっけ?
- ようかいむらのアイスクリーム屋さん
- しょくどう
- おおきいちょうちん
- ちいさいちょうちん
- わにおのわのじは
- どうかくの?
- ウマになれたらいいのにな
- 世界の朝ごはん①⑤
- 空から見る日本の名所えほん
- 日本史の詰んだ人図鑑
- しゅくだい大なわとび
- アニーとリッチー
- 思いがけず、朝子ちゃん



このほか、随時新着本が入っていますので、中学校図書館・公民館図書室へお出かけください

### 令和8年度霊仙寺山開山祭

6月7日(日)本年度の霊仙寺山開山祭を開催しました。

妙高戸隠連山国立公園である霊仙寺山麓に神官様をお迎えして厳かな雰囲気の中、登山者の皆様の安全を祈願いたしました。

昨年、一昨年は天候が不順でしたが、今年は晴天の中での祈願祭を開催することができました。



安全祈願祭に参加された方への記念の札



霊仙寺山頂にて(40名)



参加者による安全祈願祭

式典参加が60名程、記念登山は最年長85歳、最年少1歳4か月(お母さんがおんぶ)、自分の足で登頂した最年少3歳を含む総勢52名の参加を頂きました。

この日のために、「飯綱岳友会」の皆様が中心となって事前に草刈り等をして整備して下さったルートを元気よく登山し、霊仙寺山頂付近では、恒例の「タケノコ汁」の振る舞いがありました。子どもは「お味噌汁が美味しかった」、保護者は「幼稚園の登山前に自信がついたと思います」と感激していました。



飯綱山頂にて(20名)

### 飯綱町長杯 マレットゴルフ大会

4月27日(月)令和8年度飯綱町長杯マレットゴルフ大会が開催されました。

当日は、土屋龍彦町長に花を添えていただき開会式のセレモニーを行いました。

晴天の中、土屋町長の始球式で始まった今回の大会は、楽しく和やかに開催することができました。



土屋町長による始球式

### 全国少年少女野球教室

5月3日(日)日本プロ野球OBクラブ主催の「第32回シグマイン全国少年少女野球教室」が飯綱町ふれあいパークで開催されました。

当日は、元日本プロ野球選手9名と元プロ野球審判員1名を講師として野球教室と審判講習会が行われました。

地元少年野球チーム「飯綱ドリームズ」の選手の他に、近隣市町村から17チーム188名、審判講習会は30名程の参加により大盛況でした。

プロ野球選手の直接指導で良い経験となりました。



元気に活動中!飯綱ドリームズの選手



元プロ野球選手の指導による打撃練習



町内選手の活躍を紹介!

### スポーツ協会試合結果

令和8年度たじみオープンジュニア  
バドミントン春季大会

期日 4月18日(土)

場所 岐阜県多治見市

●1部男子ダブルス

優勝 北村 宏斗

第36回長野県中学生バドミントン春季選手権大会

期日 4月26日(日)

場所 塩尻市

●男子ダブルスB

優勝 北村 宏斗

日本空手協会第68回全国選抜長野県空手道選手権大会

期日 4月29日(水)

場所 塩尻市

●小学生低学年女子団体形の部・団体組手の部

優勝 西澤 由理

今井 結萌歩

●小学生4年女子個人形の部

第3位 今井 結萌歩

●小学生4年女子個人組手の部

第4位 西澤 由理

●高学年女子団体形の部

第3位 加藤 花枝

大川 月乃

山口 美羽

第46回全日本バレーボール小学生大会北信西ブロック大会

期日 5月17日(日)

場所 飯綱町

第3位 三水ジュニア

# いつからカラー?! 白黒の最後は…?!

事の始まりは、「写真って、いつから白黒じゃなくなったんだろ?」という素朴な疑問でした。調べてみると、どうやら日本の街が鮮やかな色彩に染まりきったのは、1970年代前半(昭和45年)

50年頃)らしいのです。「それなら、我が町の『白黒最後の写真』と『カラー最初の写真』を探してみよう!」と思い立ち、当時を知る年代の方々を訪ねてみました。しかし、



昭和47年(1972年)入学記念写真

「我こそはカラー写真の初年度だ!」と自信のある方、ぜひ町民会館まで情報をお寄せください。ご協力お願いします! (正村明菜)

「初めのカラール写真」がいつだったのか、確かな境目が見つかからないのです。そんな中、「白黒の最後はおそらくこの頃では?」と思われる、昭和47年(1972年)の小学校入学式の写真を貸していただくことができました。そこで、町民の皆さんに大募集です!

昭和48年(1973年)

## さ ぽ 道

1カ月前、プロ野球チームの監督が家族への暴行容疑で現行犯逮捕されました。暴行を受けた家族が、生成A(人工知能)に相談し、その回答を実行した結果、警察が到着して逮捕にいたったとの報道でした。暴行を受けた家族自身、「こんなにも大事になると思っていなかった」という旨のコメントを出していましたが、生成Aの回答をどう活用するか、人間自身が慎重に判断することが必要だと私はこの件で感じました。今年5月から暑い日が続出しています。今号の「さんぽ道」を担当するにあたり、その暑さに関連した内容の記事作成を生成Aに相談してみました。すると、実

にきれいな文章が作成されました。しかも、作成するだけではなく、「親しみやすい語り口」「気象データを交えた内容」にも調整もできます。『地域のお年寄りとの会話』『りんご畑・田園風景』など飯綱町らしさを織り込むとさらに親近感のある記事になります。『という助言もセットで提供してくれました。』「なるほどなあ」と感じる助言をもらうことが出来ましたので、次回以降の記事作成の際に参考にしたいと思います。(木賀田宏之)



## 俳句

令和八年五月句会より

- 安曇野やアルプス映す大代田 清澤今朝勝
- 色取りも日毎賑やか五月雨 高野 修
- 菖蒲湯や達者一番説きし亡母 龍野 由子
- 詰標の馴染む少年青あらし 田宮 秀英
- 菖蒲湯の謂れ語りつ孫と採る 中嶋 良秋
- さみだれや北信五岳活き活きと 仲俣 一重
- 菖蒲湯の香り五体を包みけり 日野 秀静

## 短歌

窓ごしのひかり春めく病の身 前野 泉

- 耕せばわが近くまで鳥八羽 坂井 寿男
- 何ついでむか日暮れの畑 子どもの日孫八人に囲まれて 大塚 幸枝
- ばあば、ばあばと呼ばれる幸せ 慈雨となり洗われし若葉あざやかに 武田タヅ子
- 吾の心も満たされおりぬ おきな友に久しぶりに再会す 町田智頭子
- さわやかな風に話しはつきぬ

# みんな集まれ！ 子ども食堂 てんぐカフェまつり



オカリナ友の会の皆さんによる演奏を楽しみました

5月9日にメーラプラザで「子ども食堂てんぐカフェまつり」が開催され102人が参加しました。主催の「子ども食堂てんぐカフェ」の代表を昨年まで務めた寺島恵子さん（古町在住）にお話を聞きました。

「子ども食堂てんぐカフェ」は平成30年から始めて8年経ちました。当時は100人ぐらい集まることもあり賑やかなものでした。ところがコロナの影響を受けま

して、参加者数を制限したり、家族単位で参加するような形で、あまり会話もできず寂しいものになってしまいました。コロナが下火になってもその影響から抜け出せず、参加者も減ってしまいました。

またコロナ以前の賑わいを取り戻したくて、昨年「子ども食堂てんぐカフェまつり」をスタートしました。もともと「てんぐカフェ」は単に食事をするというだけでなく、地域のつながりや多



世代交流を重視して始めたものです。食事では食文化の伝承を大切に、地元旬の食材を使ったメニューにしています。今回はおにぎり、ニラせんべいなどを用意しました。昭和から平成とな



てんぐカフェ会員の皆さんによる手作りランチをいただきました

り、だんだんと子どもの数も減り、外で遊ぶ子はほとんど見かけなくなりました。子どもの数が減ったことも大きな理由でしょうが、遊びがゲームやYouTubeという時代になってしまったんですね。「てんぐカフェ」が地域のつながりや子ども居場所づくりに貢献出来たらいいなと考えています。ですので、気軽に参加できるように、このメーラプラザ以外に、設備の整っている福井団地コミュニティセンターと古町公民館で実施しています。今年は各会場とも6回から7回予定していますのでどうぞよろしくお願いたします。今、30人ぐらいで運営しております、最高齢の方は94歳ですがますお元気で。そうはいつても私たちが世代交代の時期を迎えています。この活動を継続し

## 【今後のてんぐカフェの予定】

- メーラプラザ（事前予約制）  
9月26日（土）・10月24日（土）・11月28日（土）・12月26日（土）
- 古町公民館（事前予約不要）  
8月22日（土）・10月17日（土）・12月12日（土）
- 福井団地コミュニティセンター（事前予約不要）  
7月5日（日）・9月6日（日）・10月4日（日）  
11月3日（火）・令和9年3月7日（日）



枝豆をポットにまいて持ち帰りました

てくれるボランティアさんを募集しています。とはいえ、私自身、体が利くうちは積極的に参加して、子どもたちの笑顔に出会えたらと思います。  
(高橋 弘之)

お問い合わせは… 飯綱町社会福祉協議会 地域福祉課 電話026-253-1001

詳細は… 飯綱町社会福祉協議会HP (<http://ii-shakyo.or.jp/?p=4576>) または右のQRコードからご覧ください。

